

第136回 全国大学国語教育学会 茨城大会 プログラム

1. 日時 2019年 6月1日(土)～2日(日)
2. 会場 茨城大学 水戸キャンパス (〒310-8512 茨城県水戸市文京2-1-1)
3. 後援 茨城県教育委員会(申請中)・水戸市教育委員会(申請中)
4. 日程

- 編集委員会 5月31日(金) 13:00-17:30 ホテルレイクビュー水戸
- 常任理事会 5月31日(金) 18:00-21:00 同上
(〒310-0015 茨城県水戸市宮町1-6-1 TEL:029-224-2727 水戸駅南口徒歩5分)

【第1日目 6月1日(土)】

8:45～	9:30～12:40	12:50 ～13:50	14:00 ～15:00	15:10～17:30	18:30～
受付	自由研究発表	昼食 理事会 院生・若手交流企画	総会	シンポジウム	移動 懇親会

【第2日目 6月2日(日)】

9:00～	9:30～12:00	12:10～12:50	13:00～16:10
受付	課題研究発表	昼食 研究部門会議 テキスト編集委員会	自由研究発表 ラウンドテーブル 公開講座

5. プログラム

【第1日目 6月1日(土)】

◎自由研究発表 9:30～12:40 *3題発表後、10分間休憩 <共通教育棟2号館>

*発表者等のご所属は、エントリー時のご本人の記載に拠っています。

■第1会場 司会：府川 源一郎(日本体育大学)・吉田 裕久(安田女子大学)

- A1 明治初期会話教科書の発達過程 西本 喜久子(元広島大学大学院・院生)
- A2 「調べる綴方」の現代的意義 — 「気になる記号」(小学3年生)の授業実践をもとにして—
吉岡 尚孝(大阪教育大学附属天王寺小学校)
- A3 国分一太郎の綴り方教育論 — 「四百字綴方」による表現指導—
佐内 信之(東京学芸大こども未来研究所)
- A4 1964年東京オリンピックの作文指導 — 児童作文から見える指導の実際—
井上 善弘(国土舘大学)
- A5 国語科作文教育における訓育的教授の探求 — 芦田恵之助の綴方教育をてがかりに—
山田 直之(神戸女子大学)
- A6 『国語教育』誌における描写表現指導に関する考察13 渡邊 洋子(常磐大学)

■第2会場 司会：住田 勝（大阪教育大学）・堀江 祐爾（神戸女子大学）

- B 1 西郷文芸学「相変移」論についての一考察 高橋 茉由（広島大学大学院・院生）
B 2 問いの性質による読みの交流の様相
ーテキストマイニングを活用したワークシートの記述分析を通してー
山川 研（東京都立足立西高等学校／東京学芸大学大学院教育学研究科修士課程）
B 3 中学校・読むことの学習における学習意義の実感に関する研究
ー一年間の学習記録から捉えられる学習者の変容に注目してー
中山 莉麻（京都教育大学大学院・京都教育大学附属桃山中学校）
B 4 〈見え〉先行方略が読みにおける意味付けに与える影響 上月 康弘（小千谷市立小千谷小学校）
B 5 文学教材を通して培うクリティカルシンキング
ーIB DP 論文試験の縦断的・横断的分析を通してー 石田 まりこ（ブラッセル国際学校）

■第3会場 司会：難波 博孝（広島大学）・松山 雅子（四天王寺大学）

- C 1 「第三項理論」と「縁・意識」から考える文学教育 一日中の『故郷』の作品観を通してー
雷 民激（広島大学大学院・院生）
C 2 物語教材における最後の一文を意味付ける意義 岩崎 直哉（新潟市立大形小学校）
C 3 教科書の手引きにおける「問い」の検討と活用法の考察
ー5社の『大造じいさんとガン』の手引きを比較してー 鈴木 真樹（相模原市立富士見小学校）
C 4 読みの発達における「語り手との対話」の位相
ー『モチモチの木』の「語り手を問う」と「作者を問う」を対照させてー
小川 高広（新潟県上越市立南川小学校）
C 5 根っこを育てる国語教育 ー第三項理論と児童態理論ー 難波 博孝（広島大学）

■第4会場 司会：藤森 裕治（信州大学）・望月 善次（元岩手大学）

- D 1 文学教育の変遷から見る森鷗外『舞姫』の教材的価値 吉川 創太（信州大学大学院・院生）
D 2 森鷗外「高瀬舟」論 ー働かない身体は罪か？ー 友田 義行（信州大学教育学部）
D 3 詩人・杉本深由起研究(1) ートマトのきぶんからー 佐々木 豊（太成学院大学）
D 4 宮澤賢治理解の為の補助線的試み(2) ー「初期仏教」からの考察：「般若心経」新訳などー
望月 善次（元岩手大学）
D 5 教材データベース化の視点 ーあまんきみこ作品を例にー 矢部 玲子（北海道文教大学）

■第5会場 司会：佐藤 洋一（愛知教育大学）・三浦 和尚（愛媛大学）

- E 1 国語科教育における「指導と評価の一体化」の理論的検討 ー絶対評価・形成的評価を中心にー
木村 穂乃香（愛知教育大学大学院・院生）
E 2 文学教育における理解方略指導研究の成果と課題 渡邊 皆仁（広島大学大学院・院生）
E 3 小学校国語科授業における教師の「しかけ」と子供の「学び」に関する研究
ー第6学年「やまなし」の実践を通してー 成家 雅史（東京学芸大学附属小金井小学校）
E 4 「ねかせ読み」により<読み>を深める ー時をおいて再読する文学の授業の構想ー
片山 守道（お茶の水女子大学附属小学校）
E 5 どのような評価が中学生の「読むこと」における理解を促すのか
ーJennifer Serravallo(2019)A Teacher's Guide toReading Conferencesを中心にー
高瀬 裕人（エリザベト音楽大学）
E 6 フィクションの深い学びを促す学習評価
ーJennifer Serravallo(2018)Understanding Texts &Readersを手がかりとしてー
山元 隆春（広島大学）

■第6会場 司会：桑原 隆（筑波大学(名)）・町田 守弘（早稲田大学）

- F 1 『方丈記』「大地震」を用いて、生徒の古典に対するハードルを下げることを目的とした授業提案を行う — 古典文学と今との繋がりを考える授業作り — 辻 拓真（横浜国立大学大学院・院生）
- F 2 「古典に親しむ」学習デザイン — 「徒然草」の「あやしうこそものぐるほしけれ」に着目して — 武田 純弥（上越教育大学教職大学院・院生）
- F 3 「見る」を含む学習の系統性(4) — 竹取物語「天の羽衣」 — 坂東 智子（山口大学）
- F 4 古典文法の授業はなぜ苦痛なのか — 古典文法書の「む」「むず」の調査から原因療法を探る — 福嶋 健伸（実践女子大学）
- F 5 大村はま話しことば学習指導の検討
— 『新版標準中学国語—』「どう話し始めたらいいか」を取り上げて — 伊木 洋（ノートルダム清心女子大学／広島大学大学院・院生）
- F 6 言語技術教育からみた大村はまの「てびき」における意義と課題(2)
— 「聞くこと・話すこと」の指導の場合 — 大内 善一（元茨城大学／元茨城キリスト教大学）

■第7会場 司会：河野 順子（白百合女子大学）・塚田 泰彦（関西外国語大学）

- G 1 意味づけを促進する話し合いの条件 — 小学校2年生の絵本を用いた話し合いを分析対象として — 明尾 香澄（広島大学大学院 院生）
- G 2 聞き取りメモの活用による学習者の考えの形成過程 中山 卓（上越教育大学教職大学院）
- G 3 中学生における聞く能力の段階性と授業構想 — 大学生と中学生の聞く力の比較を通して — 田丸 優太郎（美浦村立美浦中学校）
- G 4 高等学校国語科における音声言語カリキュラム開発に関する研究
— 論理的思考力の育成を目指した「国語表現」の事例を中心に — 大滝 一登（文部科学省）
田中 洋美（椋山女学園高等学校）
- G 5 福澤諭吉による討論会移入の前提環境と学習者の反応 熊谷 芳郎（聖学院大学）
- G 6 デザイン・シンキングの考え方を導入した話し合い 細川 太輔（東京学芸大学）

■第8会場 司会：足立 幸子（新潟大学）・河野 智文（福岡教育大学）

- H 1 「書くこと」の学習指導における学習者の「ありのまま」の分類に関する一考察 金田 唯人（北海道教育大学大学院・院生）
- H 2 「違和感」を活用した意見文の推敲の導入段階学習に関する研究 小野田 磨柚（京都教育大学院）
- H 3 基本の文章構成を生かした読み方書き方の指導研究 増田 泉（新島学園短期大学）
- H 4 論理的文章を書く指導における具体的事例の研究（小学校） 國府田 祐子（松本大学）
- H 5 中・高等学校・論理的文章を「書く」ための教材の開発 長谷川 祥子（青山学院大学）
- H 6 思考ツールを活用した大学生の小論文指導（3） — ピア・ラーニングによる協同推敲の視点 — 山田 貴子（安田女子大学）

■第9会場 司会：植山 俊宏（京都教育大学）・吉川 芳則（兵庫教育大学）

- I 1 小学校2年生のわけを言うことに関するメタ認知的知識の変容過程 大村 幸子（武蔵野市立桜野小学校）
- I 2 メタ認知的知識に着目した読みの交流の検討 西田 太郎（品川区立台場小学校）
- I 3 「情報の扱い方に関する事項」を視座とした「読むこと」の授業についての一考察 井上 幸信（新潟市立万代長嶺小学校）
- I 4 幼稚園「保育内容（言葉）」と小学校「国語科」を連携させた論理的思考力の育成 篠原 京子（常葉大学）
- I 5 戦後説明的文章指導論始動期の再検討 — 指導論と学力論の関係性の解明 — 植山 俊宏（京都教育大学）

◎理事会	12:50～13:50 (昼食を準備します)	〈共通教育棟2号館〉
◎院生・若手交流企画	12:50～13:50	〈共通教育棟2号館〉
◎総会	14:00～15:00	〈講堂〉
◎シンポジウム	15:10～17:30	〈講堂〉

文学教育における「深い学び」 —新学習指導要領下における文学教育の方向性—

シンポジスト	勝田 光 (東洋大学)
	佐野 正俊 (拓殖大学)
	山中 吾郎 (大東文化大学)
コメンテーター	鶴田 清司 (都留文科大学)
コーディネーター	昌子 佳広 (茨城大学)

◎懇親会 18:30～20:30

ホテルレイクビュー水戸 茨城県水戸市宮町1-6-1 TEL:029-224-2727 水戸駅南口徒歩5分

*茨城大学からの移動には、無料送迎バスをご利用いただけます。

【第2日目 6月2日 (日)】

◎課題研究発表 9:30～12:00 〈講堂〉

国語科教育を問い直す③：教師・教育行政・研究者それぞれの立場から

登壇者	①教師の立場から	澤田 英輔 (軽井沢風越学園設立準備財団)
	②教育行政の立場から	大滝 一登 (文部科学省)
	③研究者の立場から	富安 慎吾 (島根大学教育学部)
コーディネーター	間瀬 茂夫 (広島大学)	

◎研究部門会議 12:10～12:50 (昼食を準備します) 〈共通教育棟2号館〉

◎テキスト編集委員会 12:10～12:50 (昼食を準備します) 〈共通教育棟2号館〉

◎自由研究発表 13:00～16:10 *3題発表後、10分間休憩 〈共通教育棟2号館〉

■第1会場 司会：児玉 忠 (宮城教育大学)・田中 宏幸 (安田女子大学)

- J 1 子どもの対話に見られる「寛容」についての一考察
—初等教育段階における言語教育実践を通して— 山田 深雪 (玉川大学/広島大学大学院・院生)
- J 2 学習者の個性を伸ばすための即興劇の構想 蘆 嘉依 (広島大学大学院・院生)
- J 3 読み聞かせ方法の違いが学生の読み聞かせ観に与える影響 峰本 義明 (新潟青陵大学短期大学部)
- J 4 絵本とその読み聞かせの国語教育的機能の研究 —「バムケロシリーズ」(島田ゆか)の可能性—
余郷 裕次 (鳴門教育大学)
- J 5 物語絵本・科学絵本による視覚言語を通じた言葉指導法 —心情描写・観察描写にみる—
早川 礎子 (小田原短期大学)

■第2会場 司会：足立 幸子 (新潟大学)・細川 太輔 (東京学芸大学)

- K 1 国語科授業におけるインクルーシブな学びの生起に関する研究
—「包摂」「再包摂」概念に着目した事例検討を通して—
中辻 柚里 (元東京学芸大学大学院・院生)

- K 2 抑圧からの解放のための語り 丸田 健太郎 (広島大学大学院・院生)
- K 3 異文化映画を利用した母語教育実践の開発 陸 冉 (広島大学大学院・院生)
- K 4 「『場』の拡張」が胚胎する指導 一小学校6年生への国語科乗り入れ授業の効果一
下田 実 (静岡大学(共同)大学院/静岡市立安東中学校)
- K 5 実用的な文章「フリマアプリの利用規約」を教材とした授業の実践的研究
一家庭科・公民科の視点を取り入れた科目横断的授業一 札埜 和男 (岡山理科大学教育学部)
- K 6 「包摂」概念から照射する「国語単元学習」の意義 藤井 知弘 (岩手大学教育学部)

■第3会場 司会：坂口 京子 (静岡大学)・佐野 比呂己 (北海道教育大学釧路校)

- L 1 文法を学ぶ意義を実感できる入門期の指導の在り方 三國 大輔 (氷見市立南部中学校)
- L 2 BCCWJ小中学校教科書データにおける複合助詞の出現状況
一「による」「によって」「について」「として」「という」について一
高木 輝夫 (ひたちなか市立阿字ヶ浦中学校)
- L 3 語句に着目した読み方指導 一行動を表すことばを中心に一 加古 有子 (至学館大学)
- L 4 小学校国語教科書における比喩表現のカテゴリー分類
一日本語の「モノゴトのとらえ方」を教えるための予備調査として一
笹平 真之介 (日本女子大学)
- L 5 幼児教育と小学校教育をつなぐ教員のみとりの検討 一ことばの発達の連続性を見据えて一
春木 憂 (福山市立大学)
幸坂 健太郎 (北海道教育大学)
- L 6 藤原与一の国語教育理論における日本語学的視点について 吉田 雅昭 (帝塚山大学)

◎公開講座 13:00~16:10 <共通教育棟2号館>

国際バカロレアにおける「言語と文学」「文学」の授業から国語科のあり方を考え直す
一教科横断的キー概念 (key concepts)・能力にもとづく学習指導を手がかりに一
MYP (Middle Years Programme = 中1~高1) における「言語と文学」を中心に

「言語と文学」の教科構造	中村 純子 (東京学芸大学)
「言語と文学」の課題と評価	熊澤 ほづみ (加藤学園暁秀中学校・高等学校)
実践報告1	浅井 悦代 (東京学芸大学附属国際中等教育学校)
実践報告2	石田 まりこ (The International School of Brussels)

コーディネーター 高木 まさき (横浜国立大学)

◎ラウンドテーブル 13:00~16:10 <共通教育棟2号館>

- R 1 国語科教育と基礎教育学の対話の試み 一教育心理学・教育社会学の若手研究者を迎えて一
コーディネーター 渡辺 哲男 (立教大学)
登壇者 石本 啓一郎 (立教大学)
粕谷 圭佑 (日本学術振興会特別研究員 DC /立教大学大学院・院生)
- R 2 言葉に関わる「知識及び技能」を「思考力・判断力・表現力等」の育成を通して、いかに具体化する
か(2) 一文法一
コーディネーター 山室 和也 (国土舘大学)
登壇者 宮城 信 (富山大学)
三谷 玖未 (留萌市立留萌中学校)
松崎 史周 (日本女子体育大学)

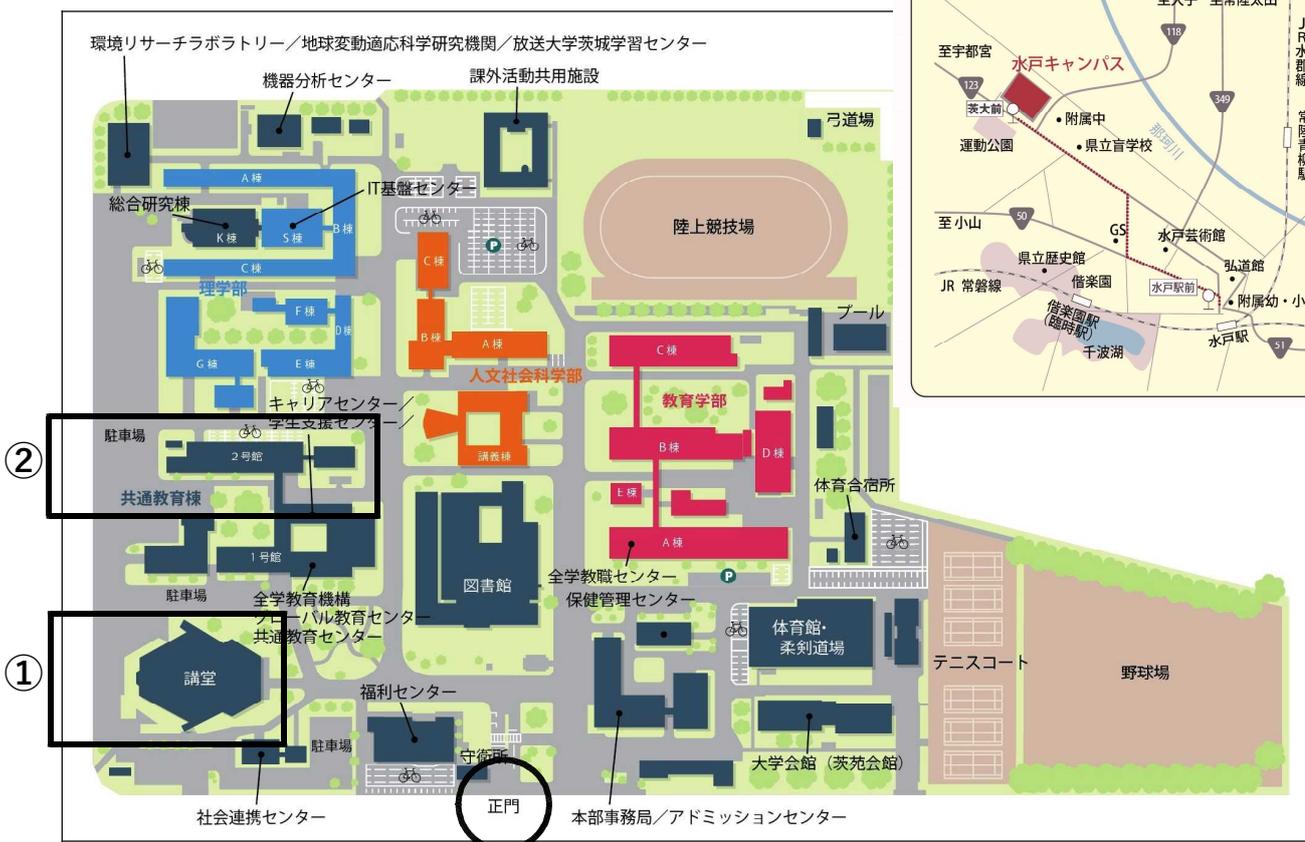
- R 3 社会的リソースとしての中等国語読本・女学校国語読本・文法読本データベース作成に向けて
ーデータベース作成の意義・視点・方法・対象・先行研究についてー
コーディネーター 菊野 雅之（北海道教育大学）
登壇者 小笠原 拓（鳥取大学）
信木 伸一（尾道市立大学）
八木 雄一郎（信州大学）
- R 4 ICTで国語授業はどう変わるのか ー体験授業とディスカッションー
コーディネーター 野中 潤（都留文科大学文学部国文科）
登壇者 渡邊 光輝（お茶の水女子大学附属中学校）
二田 貴広（奈良女子大学附属中等教育学校）
植田 恭子（都留文科大学文学部国文科）
犬飼 龍馬（立命館守山中学校高等学校）
- R 5 語彙力を捉え直す
コーディネーター 稲井 達也（日本女子体育大学）
登壇者 有働 玲子（聖徳大学）
小沢 貴雄（文化庁）
浅田 孝紀（東京学芸大学附属高等学校）
畑 綾乃（筑波大学附属高等学校）
- R 6 国語科学習用語の選定と授業における活用方法の研究 ー小・中学校での実践事例の検討を通してー
コーディネーター 中村 和弘（東京学芸大学）
登壇者 片山 守道（お茶の水女子大学附属小学校）
成家 雅史（東京学芸大学附属小金井小学校）
廣瀬 修也（お茶の水女子大学附属小学校）
今村 行（東京学芸大学附属大泉小学校）
渡邊 裕（東京学芸大学附属世田谷中学校）
- R 7 参加型文化の時代におけるメディア・リテラシー ー国語教育における映像・言葉・文化ー
コーディネーター 石田 喜美（横浜国立大学）
登壇者 奥泉 香（日本体育大学）
福井 雅洋（横浜国立大学教育学部附属横浜中学校）
岩田 晴之（横浜国立大学大学院）

【全ての発表等にあたっての留意事項】

- 自由研究発表，ラウンドテーブル，公開講座の配付資料は，A 4 サイズで150部ご持参下さい。
なお，大会事務局では印刷の対応は致しませんのでご了承下さい。
- 発表にプレゼンテーションソフトを利用する場合，パソコンは発表者ご自身のものをご使用ください。接続はVGA（D-sub15ピン）ケーブルのみです。HDMI端子やMacとの接続が必要な場合はアダプターをご準備下さい。なお，準備時間も発表時間に含みます。
- 発表資料は，発表者ご自身で会場まで持参ください。各会場にて担当スタッフが設置いたします。
- 公開講座，ラウンドテーブルの資料も，発表者ご自身で会場まで持参ください。各会場にて担当スタッフが配付等のお手伝いをいたします。
- 発表資料を事前に大会事務局でお預かりすることはできません。ご了承下さい。
- 発表資料の残部については，発表者が各自お持ち帰り下さい。
- 分科会に参加せず発表資料のみを取る場合は，当該の発表終了後にお願いいたします。
- シンポジウム，課題研究発表の配付資料は，450部ご持参ください。そのほか，パソコン，プロジェクター（プレゼンテーションソフト）の使用等については，コーディネーターの方とご確認ください。

6. 会場案内

○学内マップ



○茨城大学 水戸キャンパスの位置



- 受付，全体会（1日目午後の総会，シンポジウム，2日目午前の課題研究発表）は，「講堂」（上図①）にて行います。
- 1日目午前の自由研究発表，昼の理事会，院生・若手交流企画，2日目昼の研究部門会議，テキスト編集委員会，午後の自由研究発表，公開講座，ラウンドテーブルは「共通教育棟 2号館」（上図②）にて行います。
- その他，詳細は当日の案内（『発表要旨集』，係の誘導）にてご確認ください。

7. 昼食に関するご案内

- ・お弁当の申し込みをされた方は、「講堂」ロビーにてお受け取りください。当日の販売はありません。
- ・昼休みに行われる理事会、研究部門会議、テキスト編集委員会に出席される方は、それぞれ会場に昼食（お弁当）を準備しておきます。
- ・シンポジウム、課題研究発表、公開講座に登壇される方の昼食については、それぞれの担当者（コーディネーター）から連絡があります。
- ・昼食を持ち込まれる場合、ごみは各自で責任を持って処分をお願いいたします。

8. 会場へのアクセス

茨城大学水戸キャンパスへは、JR水戸駅北口バスターミナルより路線バスの利用が便利です。



⑦番のりばから

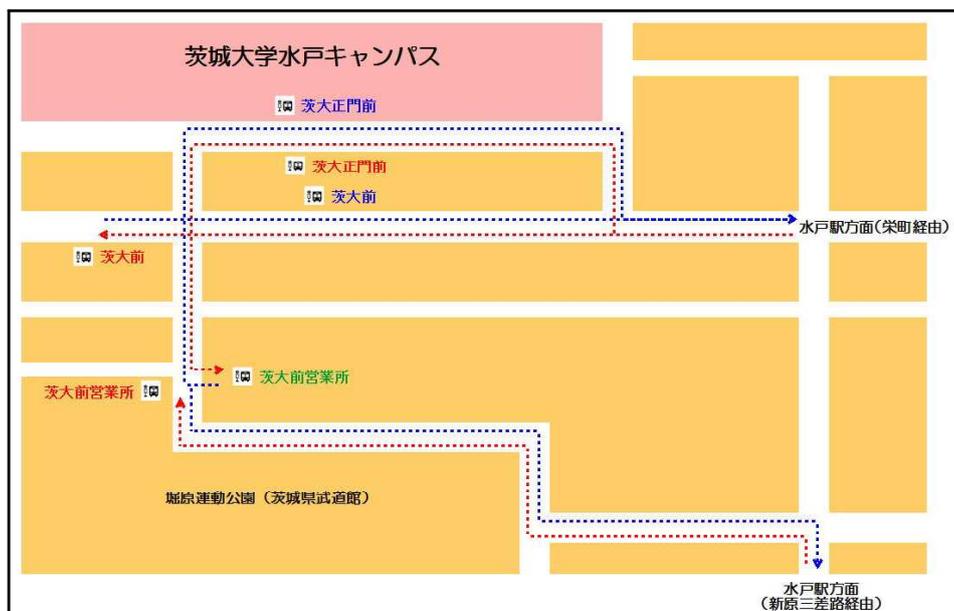
番号	行き先	降車場所
12	茨大前営業所	茨大前営業所（終点）
12	【特急】茨大前営業所	茨大正門前
2	渡里ゴルフセンター	茨大前
40	石塚車庫	
47	水戸ニュータウン	
45	野口車庫	
45	長倉・御前山車庫	
45	ツインリンクもてぎ	
41	石塚	
24	赤塚駅北口	
22	双葉台二丁目	

⑤番のりばから

番号	行き先	降車場所
11	茨大前営業所	茨大前営業所（終点）
11	茨大正門前	茨大正門前（終点）
5	茨大前営業所	茨大前営業所（終点）

※いずれも、所要時間は25分、運賃は330円です。
(Suicaは使用できません。)

大学周辺バス停の位置



茨城大学HP／総合案内／アクセス・キャンパス案内／水戸キャンパス／水戸駅からのアクセス案内
(<http://www.ibaraki.ac.jp/generalinfo/campus/mito/access/index.html>) をご参照ください。